

家庭科学習指導案

学校名 海田町立海田西小学校

- 1 日時 平成 29 年 7 月 5 日 (水) 第 5 校時
- 2 学年 第 6 学年 1 組 男子 14 名 女子 9 名
- 3 題材名 夏をすずしくさわやかに ～快適に夏を過ごそう～
- 4 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校新学習指導要領家庭の第 5 学年及び第 6 学年「B 衣食住の生活」の指導事項 (4)「衣服の着用と手入れ」のアー (ア)・(イ), イと, (6)「快適な住まい方」のアー (ア), イを受けて設定したものである。衣服の着方と住まい方を関連させ、日常生活を快適に過ごすための工夫ができるようにしている。日常着の着方と手入れに関する実習などを通して、衣服への関心を高め、着方や手入れの基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、目的に応じた快適な着方を考え、日常生活へと生かしていく能力を育てることをねらいとしている。

四季のある日本では、1 年を通して快適な生活を送るための工夫や対処方法が必要である。暑い夏を快適に過ごすために打ち水をして温度を下げたり、ござを敷いて肌触りをよくしたり、うちわを使って風を当てたりするなど、昔からの知恵や工夫がある。しかし、近年、エアコンの普及など、冷房機器への依存度が高まったことや、住宅の近代化や極小化により、昔ながらの快適に過ごす知恵や工夫が薄れてきている。

本題材では、「衣服の着用と手入れ」として、涼しい衣服の着方を考え、快適な衣生活を送るために洗濯の仕方を学び、手洗いで洗濯をする。また、「快適な住まい方」として、涼しさと空気の流れに着目し、冷房機器に頼る生活を見直し、私たちにできる自然を生かした住まい方を考える。本題材は、夏に焦点を当てた衣生活や住まい方をよりよいものにしようとする実践的態度を養い、長期休業中の自分の生活に生かしていく意欲を喚起する構成となっている。

(2) 児童観

本学級の児童は、5 年生で、「衣服の着用と手入れ」においては、ボタンの付け方を学習しており、また、「快適な住まい方」においては、住まいの整理・整頓や汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について学習している。

本単元に関わる児童の事前アンケートを行ったところ、以下のような結果となった。

- 普段、自分が着る服 (私服) は、誰が選んでいますか。
 - 自分・・・19 人 (73%)
 - 母・・・4 人 (17%)
- どんなことに気を付けて、自分の着る服を選んでいますか。(自由記述・複数可)
 - 色やバランス, 見た目・・・9 人 動きやすさ・・・・・・・・・・8 人
 - 天気・気温・・・・・・・・・・4 人 ヘアスタイルに合わせて・・・1 人
 - 気分・・・・・・・・・・1 人 特になし・・・・・・・・・・1 人
- 家で洗濯をするのは誰ですか。
 - 自分・・・1 人 (4.34%)
 - 母・・・21 人 (91.33%)
 - その他・・・1 人 (姉) (4.34%)

○自分で洗濯をしたことがありますか

はい・・・12人 (52%) →

いいえ・・・11人 (48%)

洗濯機使用の経験がある児童・・・9人

手洗いによる洗濯の経験がある児童・・・7人

○洗濯をしたとき、どんなことに気を付けましたか。(自由記述・複数可)

洗剤の量・・・4人

ポケットの中身の確認・・・1人

布を傷めないようにする・・・2人

洗濯機のボタン操作・・・3人

干すときにしわを伸ばす・・・2人

○夏場など、「暑い」と感じる時、気持ちよく過ごすためにどんなことをしていますか。

(自由記述・複数可)

エアコン・扇風機を使う・・・10人

窓や戸を開ける・・・5人

半袖の服を着る・・・4人

冷たい飲み物や食べ物を食べる・・・4人

プール・水浴びで体を冷やす・・・2人

日陰に入る・・・1人

カーテンで日光を遮る・・・1人

打ち水をする・・・1人

うちわで扇ぐ・・・1人

風鈴の音で涼む・・・1人

など

「衣服の着用と手入れ」では、衣服選びには動きやすさや天気・気温を重視する児童が多くおり、快適な衣服選びを意識している児童が多いことが分かった。また、ファッション性(色・見た目のバランス)を重視する児童も多くいた。洗濯については、クラスの約半数が経験しているが、普段、自分で行う児童は非常に少ない。洗濯経験のある児童においても、洗剤の量を気にする児童はいても洗濯をする際に洗濯表示を気にする児童は少なく、衣服に合った手入れをしている児童は少ないことが分かった。「快適な住まい方」では、暑さをしのぐためにエアコンや扇風機を使用する児童がクラスの約半数で、日光を遮ることや打ち水をするなど、自然をうまく活用して快適な生活を送ろうと意識している児童は少なかった。

(3) 指導観

指導に当たっては、題材全体を通して協働と対話を手立てとして、自分の生活を振り返り、今後の生活へと生かしていけるような展開にしていきたい。

「夏を涼しく快適に過ごす」とはどういうことなのか、それを考えていくために、まずは自分の生活を振り返るところからスタートする。生活を振り返ることで、冷たい飲み物や食べ物で体の中を冷やしている、冷房機器に頼った生活を送っている、風通しをよくする工夫ができていないなど、いろいろなことに気付くと思われる。そこから、昔からの知恵や工夫に着目させ、食べる・住む・着る・使う・寝るなどの観点を与え、対話を基に昔の生活の知恵や工夫点を整理させたい。

次に、昔の生活の知恵や工夫を実際の私たちの生活に生かすことができるのか、前述の観点の中から「住む」「着る」に重点を置き、快適な住まい方や着方について考えさせる。「住む」においては、日光を遮って日陰を作ること、風通しをよくすること、この2点について、調査を基に考えさせたい。気温を計測したり、自分の感じ方を記録したりする調査活動を通して、これらの工夫が快適に過ごす上で有効であるという実感を持った学びとする。そして、昔の生活の知恵や工夫を自分の生活の中にどのように取り入れられるのか、自分の部屋(もしくは自宅全体)でできることを考え、まとめとしたい。また、「着る」においては、昔からの衣服として浴衣や甚平が挙げられる。これらの衣服の特徴を考えさせるとともに、これらの布地と冬服の布地を使い布の

性質を比べる実験をさせる。実験結果から夏を涼しく快適に過ごすためには、肌触りや通気性、吸水性・吸湿性の良い布地などを選んで着ればよいことに気づかせ、衣服の特徴とともに、夏休みを快適に過ごす自分の服装について考える活動へとつなげたい。

さらに、衣服の着方の面から、手入れや洗濯についても考えさせたい。中学校の洗濯機での洗濯指導につなげるため、手洗いの仕方を知り、実際に手洗いで洗濯を行う。その際、旧の洗濯表示と平成 28 年 12 月より変更になった洗濯表示を取り上げ、今後の家庭生活でどちらにも対応できるようにしたい。手入れや洗濯をすることで衣服を気持ちよく着られ、長持ちさせることができることに目を向けさせ、衣生活をよりよいものにしようとする実践的態度を養いたい。

5 題材の目標

- 夏を涼しく快適に過ごす住まい方や衣服に関心をもち、身の回りを快適に整えたり、日常着を気持ちよく着たり手入れをしたりしようとしている。 【家庭生活への関心・意欲・態度】
- 快適な住まい方、日常着の着方と手入れについて課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。 【生活を創意工夫する能力】
- 夏を涼しく快適に過ごすための住まい方や、日常着の着方と手入れができる。【生活の技能】
- 夏を涼しく快適に過ごすための住まい方や、日常着の着方と手入れの仕方を理解している。 【家庭生活についての知識・理解】

6 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・夏の気候に合わせた生活の仕方に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。 ・衣服の働きや日常着の着方に関心をもち、夏の気候、生活場面に応じた着方を考えようとしている。 ・日常着の手入れに関心をもち、気持ちよく着るために手入れをしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の気候に合わせた住まい方について課題を見付け、自分なりに快適な住まいについて考えたり、工夫したりしている。 ・衣服の働きや布地の特徴を基に、夏の気候、生活場面に応じた日常着の着方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ・日常着を点検し、課題を見付け、気持ちよく着るための手入れについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の種類や汚れに応じた、手洗いによる洗濯ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の気候に合わせた快適な住まい方について理解している。 ・衣服の保健衛生上の働きや生活活動上の働きが分かり、気温や季節の変化、生活場面に応じた着方について理解している。 ・衣服の手入れや洗濯の必要性が分かり、手洗いによる洗濯の仕方を理解している。

7 本単元において育成しようとする資質能力

- 【知識】 衣服の着用と手入れについての知識
夏場の快適な住まい方についての知識
- 【スキル】 日常の生活から、気温や季節の変化による住まいや衣服についての課題を見付け、それらを解決しようとする課題発見・解決力
- 【意欲・態度】 調査や実験を手掛かりに課題を解決しようとするチャレンジ精神
- 【価値観・倫理感】 友達と考えを聞き合い、共感する力

8 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習内容	評価					
			関・意・態	創意工夫	技能	知・理	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	1	課題の設定 夏の生活を見つめよう 夏の生活の工夫と問題点に気づき、学習計画を立てる。	○				夏の気候に合わせた生活の仕方に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。 (行動観察・ノート・発表) 衣服の働きや日常着の着方に関心をもち、夏の気候、生活場面に応じた着方を考えようとしている。 (行動観察・ノート・発表)	日常の生活から、気温や季節の変化による住まいや衣服についての課題を見付け、それらを解決しようとする課題発見・解決力 (行動観察・ノート・発表)
二	2 3	情報の収集 整理・分析 快適な住まい方をしよう 涼しさ調べをもとに、自然を生かした住まい方を考える。		○		○	夏の気候に合わせた快適な住まい方について理解している。 (行動観察・ノート・発表) 夏の気候に合わせた住まい方について課題を見付け、自分なりに快適な住まいについて考えたり、工夫したりしている。 (行動観察・ノート・発表)	夏場の快適な住まい方についての知識 (行動観察・ノート・発表) 調査や実験を手掛かりに課題を解決しようとするチャレンジ精神 (行動観察・ノート・発表)
	4 5	情報の収集 整理・分析 快適な着方をしよう 夏服のつくりや特徴、衣服の働き、布地の比較実験				○	衣服の保健衛生上の働きや生活活動上の働きが分かり、気温や季節の変化、生活場	衣服の着用についての知識 (行動観察・ノート・発表) 調査や実験を手掛

		を基に、涼しい着方を考える。				面に応じた着方について理解している。 (行動観察・ノート・発表) 衣服の働きや布地の特徴を基に、夏の気候、生活場面に応じた日常着の着方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (行動観察・ノート・発表)	かりに課題を解決しようとするチャレンジ精神 (行動観察・ノート・発表)
6	情報の収集	整理・分析					
7	手洗いで洗濯をしよう						
8	実験を基に衣服の手入れや洗濯の必要性に気づき、洗濯の手順を考え、汚れの様子や洗濯表示に合わせた手洗いをする。 【本時6／9】		○			日常着の手入れに関心を持ち、気持ちよく着るために手入れをしようとしている。 (行動観察・発表) 日常着を点検し、課題を見付け、気持ちよく着るための手入れについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (行動観察・ワークシート・発表) 衣服の手入れや洗濯の必要性が分かり、手洗いによる洗濯の仕方を理解している。 (行動観察・ノート・発表) 衣服の種類や汚れに応じた、手洗いによる洗濯ができる。 (行動観察)	調査や実験を手掛かりに課題を解決しようとするチャレンジ精神 (行動観察・ノート・発表) 衣服の着用と手入れについての知識 (行動観察・ノート・発表)
三	9	まとめ・創造・表現 ふりかえり 夏の生活を工夫しよう 単元の学習を振り返り、長期休業中に取り組む夏の生活の工夫を考え、発表する。				夏の生活の仕方から課題を見付け、環境に配慮した快適な住まい方や着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (行動観察・ノート・発表)	友達と考えを聞き合い、共感する力 (行動観察・発表)

9 本時の学習

(1) 本時の目標

日常着を手入れする必要性や、気持ちよく着るための手入れの方法について考えることができる。
【生活を創意工夫する能力】

(2) 観点別評価規準

◎生活を創意工夫する能力

日常着を点検し、課題を見付け、気持ちよく着るための手入れについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。

(3) 準備物

消費者庁スライド資料「新しい洗濯表示を覚えよう！」(一部改編)、洗濯後のきれいな布6枚、汚れの付いた布6枚、水の入ったビーカー12個、平成28年11月までの洗濯表示表、平成28年12月以降の洗濯表示表、衣服に付いている洗濯表示の拡大写真、ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点(・) ◆配慮を要する児童への支援	評価規準 教科の指導事項(○) 資質・能力(★) (評価方法)
導入	考える 1 Tシャツを着て、次に着るまでのTシャツの様子について話し合い、めあてを確認する。	・Tシャツを着て、次に着るまでのTシャツの手入れについて、消費者庁のスライドを活用し考えさせる。 ・手入れの一つとして、洗濯があることを確認する。	○日常着の手入れに関心をもち、気持ちよく着るために手入れをしようとしている。(行動観察・発表)
	なぜ、衣服を手入れしたり、洗たくしたりしなければならないのかを考えよう。 また、洗たくをするときに気をつけたらよいことを話し合おう。		
展開	深める 2 なぜ、衣服の手入れや洗濯が必要なのかを考え、発表する。 ①個人で ②グループで 3 布の吸水実験を行い、結果からなぜ手入れが必要かを再度グループで考え、発表する。 きれいな布 →水を吸収し沈む。	・自分の考えをワークシートに記入させる。 ◆衣服を着て、汚れたときのことなど、具体的な場面を想像しながら考えるよう促す。 ・きれいな布と汚れのついた布を、それぞれ水の入ったビーカーに入れ、変化を見る。 ・実験結果から、汚れた布は汗を吸い取りにくくなり、たくさん汗をかくと布が吸い切れなくなることや、汚れは時間が経つと布にしみこみ、取り除きにくくなり、保健衛生上よく	★調査や実験を手掛かりに課題を解決しようとするチャレンジ精神 (行動観察・ワークシート・発表)

	<p>汚れた布→水を吸収しにくいので浮いたまま。</p> <p>4 洗濯表示について知り、洗濯をするときに気を付けたらよいことを話し合う。</p> <p>①個人 ②全体</p>	<p>ないことをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「洗剤の量と落とす力」(P79 図4) から、表示以上の洗剤を使っても、汚れの落ち具合は変わらないことを確認する。 ・旧洗濯表示, 新洗濯表示を提示し, 洗濯表示の見方(違い)について指導する。 ・布地によって洗濯表示が違うことを, 衣服についている洗濯表示タグの拡大写真を複数提示して理解できるようにし, 洗濯表示が違うということは洗濯方法が違うということを確認する。 ・洗濯をするときに気を付けたらよいことを, ワークシートに記入させる。 ◆考えが書きにくい児童には, 個別に声をかけ, 板書を確認しながら考えをまとめさせる。 	<p>★衣服の着用と手入れについての知識 (行動観察・ワークシート・発表)</p>
まとめ	<p>まとめる</p> <p>5 本時の学習を振りかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り, 手入れの必要性和洗濯の注意点を自分の言葉で整理させる。 	<p>○日常着を点検し, 課題を見つけ, 気持ちよく着るための手入れについて考えたり, 自分なりに工夫したりしている。 (行動観察・ワークシート・発表)</p>
	<p>児童のまとめ例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手入れをすることで, 汗や汚れ, においを落とし, きれいな衣服を着て気持ちよく過ごすことができる。 ・手入れをすると, 布についた汚れを落とし, 服を長持ちさせることができる。 ・洗たくをするときは, 洗たく表示や洗ざいの量に気をつけてするとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習では, 手洗いによる洗濯の仕方を学習し, 洗濯の計画を立て, 実際に洗濯をしていくことを伝える。 	
<p>見通す</p> <p>6 今後の学習の見通しをもつ。</p>			

(5) 板書計画

7/5

めあて

なぜ、衣服を手入れしたり、洗たくしたりしなければならぬのかを考えよう。
また、洗濯をするときに気をつけたらよいことを話し合おう。

Tシャツを着る→次に着るまで

Tシャツを買う→着る→次に着るまで、Tシャツのようすを考えてみましょう。それぞれどんなことに気をつけたらいいでしょうか？



着る…汗をかく、よごれがつく

気持ち悪い、ベタベタ、くさい

洗たく

(実験) 水の吸収のしやすさを調べる。

きれいな布とよごれた布を水にうかせ、変化を見る。

きれいな布の写真

よごれた布の写真

ベタベタ、着心地が悪い
汚れが落ちない、布がいたむ

洗剤の量と落とす力の写真 (P79 図4)

洗剤の量は、表示に合わせる。

衣服についている旧洗濯表示タグ写真

旧洗濯表示表

衣服についている新洗濯表示タグ写真

新洗濯表示表

洗たく表示を確認する。

まとめ

手入れをすることで、汗や汚れ、においを落とし、きれいな衣服を着て気持ちよく過ごすことができる。
洗たくをするときは、洗たく表示や洗ざいの量に気をつけてするとよい。